

二峠六宿「東海道歴史街道」の魅力再発見と発信

はじめに

平成25年6月「三保松原」が世界文化遺産「富士山」の構成資産に登録された。これは市、地元自治会、商工会議所、観光関係者などが共同でクリーンアップ大作戦を実施するなど、官民協力して熱い思いを発信し続け、さらに日本政府も現地において委員各国に粘り強く説明するなど、懸命の努力を重ねた結果である。関係者の皆さま



薩埵峠からの富士

に深くお礼を申し上げたい。おかげさまで「三保松原」には例年に比べ約3倍の人が訪れ、にぎわいをみせている。静岡市ではこの「三保松原」の保全と来訪者へのおもてなしをすべく、観光客受入れのための環境整備や松原の適性管理と健全な育成などに取り組んでいる。

東海道二峠六宿と徳川家康公顕彰400年記念事業

本市には、恵まれた気候や自然と、世界に誇れる歴史文化など、たくさん魅力をもった地域資源がある。これらを磨き、多くの人に訪れていただける「まち」を目指している。その1つとして本市には家康公の居

城である「駿府城跡」がある。平成27年は、徳川家康公没後400年にあたり、家康公が今川氏の人質時代と大御所時代を過ごした本市は、生誕地である岡崎市、青年期を過ごした浜松市とともに、経済界と連携して「徳川家康公顕彰400年記念事業」に取り組んでいる。

家康公の江戸入府は、天正18年（1590年）8月。慶長5年（1600年）、関が原合戦に勝利した家康公が全国統一政策として最初に取り組んだのが駅伝制と街道の整備である。慶長6年、東海道の宿に「伝馬定書」と「伝馬朱印状」を下付した。しかし、この時点で「東海道五十三次」がすべてそろっていたわけではなく、庄野宿が寛永元年（1624年）に設置され「東海道五十三次」がすべてそろった。

静岡市長 田辺信宏



本市は、平成15年に旧静岡市と旧清水市が、さらに平成18年に旧蒲原町、平成20年に旧由比町と合併した結果、「東海道五十三次」のうち蒲原宿、由比宿、興津宿、江尻宿、府中宿、丸子宿の6宿を抱えることになった。また、この間には美しい富士の眺望で有名な薩埵峠と難所と言われた宇津ノ谷峠がある。

蒲原宿は、歌川広重の「東海道五拾三次之内」の中で最高傑作と言われる「蒲原「夜之雪」」に描かれた。由比宿の本陣跡には「市立東海道広重美術館」があり、広重の「東海道五拾三次」（保永堂版）や世界で数点しかないと言われる「中津川」（通称雨の中津川）を含む「木曾海道六拾九次之内」などを収蔵している。興津宿には、朝鮮通信使が立ち寄った臨濟宗の名刹清見寺がある。江尻宿は、

巴川の尻（下流）を示し、巴川が作る砂州上にできた宿である。巴川河口を利用した清水港には、駿府城奉行支配のお蔵が18棟もあり、江戸へ物資を運ぶ重要な港として活気に満ちていた。府中宿は、家康公大御所時代、人口12万人の大都市であった。久能山東照宮（国宝）など、家康公に縁の史跡は数多い。また、江戸時代の大衆旅行ブームの火付け役となった「東海道中膝栗毛」の作者十返舎一九は、府中（静岡市葵区）の下級武士の子として生まれた。丸子宿は、東海道の中で最も小さな宿だが、名物の「とろろ汁」が有名。

由比宿と興津宿の間にある薩埵峠は、朝鮮通信使を通すため山腹を切り開いて新たに作った道で、今

くの歌に詠まれた峠であり、平安時代の道から江戸時代の街道、さらに日本初の有料トンネル「明治トンネル」、大正、昭和、平成の各時代に建設されたトンネルが狭い峠に集中しており、交通史、土木技術史の博物館のようになっている。

官民連携で東海道二峠六宿の地域ブランド化

平成20年に「二峠六宿」を地域ブランド化する動きが起り、ボランティアガイド、NPO、商工会議所、旅行会社、国、市などが加わり「東海道静岡二峠六宿街道街観光協議会」が立ち上がり、平成21年には、東海道「駿河二峠六宿風景街道」に登録した。

でも浮世絵の名場面を彷彿させる人気スポット。また、丸子宿と岡部宿の間にある宇津ノ谷峠は、「伊勢物語」に登場し、「蕨の細道」として多



府中宿歴史モニュメント

一口メモ

東海道 総延長493.7km 江戸日本橋を起点に 京都の三条大橋までを東海道と呼ぶ

東海道の名称の由来は、古代の律令制国家の行政区域に由来する。

街道としての歴史は、徳川家康が慶長6年（1601年）に定めた宿駅制度にはじまる。江戸日本橋から京の三条大橋までの間の宿場ごとに53回の荷物の継ぎ替えを行ったことから、「東海道五十三次」と呼ばれた。

静岡市には東海道の宿場のうち、蒲原、由比、興津、江尻、府中、丸子の6つの宿場があり、さらに興津宿からは身延街道が北へ延び、古くからの交通の要所として人や物資の往来で栄えた。

企画協力…全国街道交流会議「街道交流首長会」